

⑫実用新案公報(Y2)

昭54-23483

⑬Int. Cl.²

A 45 D 40 / 26
A 45 D 33 / 00
A 45 D 34 / 04

識別記号

⑭日本分類

125 C 13
125 C 12

庁内整理番号

7001-3B
7001-3B
7001-3B

⑮公告

昭和54年(1979)8月11日

(全3頁)

1

⑯化粧料容器

⑰実 願 昭51-141941

⑱出 願 昭51(1976)10月21日

公 開 昭53-61276

⑲昭53(1978)5月24日

⑳考 案 者 岡村芳和

東京都板橋区新河岸2の7の11
藤工業株式会社内

㉑出 願 人 藤工業株式会社

東京都板橋区新河岸2の7の11

㉒代 理 人 弁理士 谷山守

㉓実用新案登録請求の範囲

1. 有底筒状容器口部に螺合するキャップと、該
キャップと一体に成り、上記口部に内挿嵌合した
シゴキ部材を貫挿して容器内に挿入される塗布棒
と、該塗布棒端部に螺設したネジに螺着する補助
部材の舌状部に接着して成る塗布部材から成る化
粧料容器。

2. キャップ螺合部と塗布棒に螺設するネジを同
ピッチ、同方向とし、キャップ部材が一体同時成
型出来る様に構成したことを特徴とする実用新案
登録請求の範囲第1項記載の化粧料容器。

3. 塗布棒端部に螺合して成る塗布部材を接着し
た補助部材を、該螺合部に於いてカシメ加工又は
溶着加工に依る螺子戻り防止加工を施工して成る
ことを特徴とする実用新案登録請求の範囲第1項
記載の化粧料容器。

考案の詳細な説明

本考案は、液状、ペースト状又は粉状のアイシ
ヤドウ等の化粧料を収納する容器に関する。

従来、化粧料を収納するための容器は多数考案
されているが、特に化粧料内にキャップと一体化
して成る塗布部材を浸漬し、該塗布部材に付着し
た化粧料を顔面等に当接して使用する塗布型の化
粧品容器は、塗布部材に付着した過剰化粧料を容

2

器内に戻すための、シゴキ部材が容器口に設けら
れているが、該シゴキ部材と塗布部材の摩擦に依
り、塗布部材が塗布棒端部から抜け落ちてしまう
事故が多発し、実用上の欠点を有するものであつ
た。

本考案は上記欠点に鑑み、塗布部材が塗布棒か
ら抜け落ちない為の化粧料容器の改良を目的とす
るもので、キャップ部と一体に成る塗布棒先端に
キャップに螺設した螺合ネジと同ピッチ、同方向
のネジを螺設、同時成型して、該ネジに塗布部材
を接着又は溶着して成る補助部材を螺合一体化し
容易に塗布部材が抜け落ちることのない化粧料容
器を提唱することを目的とするものである。

今、本考案化粧料容器の一実施例を図面につい
て詳しく説明するに、第1図は化粧料容器の縦断
面図である。

有底筒状の容器本体1は合成樹脂、ガラス、磁
器、又は金属等に依つて構成され、該本体1の口
部1a外周には螺合用雄ネジ2が螺設され、口部
1a内にはゴム、合成ゴム等から成るシゴキ部材
3がその嵌挿部3aを密接して内挿し、外端3b
を容器本体口部1aに係止して成る。

4は上記本体口部1aに螺合するキャップであ
り、該キャップ4は上記シゴキ部材3の挿入孔5
に密接して挿入される塗布棒6とキャップ嵌合部
7が合成樹脂にて一体に成型されるもので、キャ
ップ嵌合部7には金属又は合成樹脂から成る装飾
キャップ8が外挿圧入されると共に、下端部内周
には上記雄ネジ2に螺合する雌ネジ9を螺設して
成る。

上記塗布棒6の先端四部6aの内端には前記雌
ネジ9と同ピッチ、同方向の雌ネジ10を螺設す
ると共に、該雌ネジ10に螺合する雄ネジ11を
設けた補助部材12の舌状部12aに発泡ウレタ
ン樹脂等の塗布部材13を外挿接着し、該塗布部
材13の上端部13aを塗布棒6の先端四部6a
に押し込みながら補助部材12の雄ネジ11を雌

ネジ10に螺合固着して成る。然る後、その螺合部をカシメ加工若しくは接着、或は超音波ウエルダー等に依り、溶融接着して一体化して成る。尚、図中12bは補助部材舌状部12a表面に一体成型した凸状であり、又aは化粧料である。

上記構成に成る化粧料容器は、化粧品aを本体1内に充填後、キャップ4と一体に成る塗布棒6をシゴキ部材3の挿入孔5より容器内に挿入し塗布棒6の先端に固着した塗布部材13に化粧料aを浸漬又は付着せしめると共にキャップ4を引き塗布棒6を引き抜く途中に於いてシゴキ部材3の挿入孔5に依り塗布部材13に付着した加割化粧料aを容器本体1内にシゴキ落す様に成るものである。

然して上記塗布棒6に設けた塗布部材13は補助部材12の舌状部12aに接着されると共に、該補助部材12が塗布棒6と螺合して成る為、引張力に対して塗布部材13が抜け落ちることがなく、更に螺合部を接着してネジ戻りが無い様構成されている為容易に補助部材12が塗布棒6端部から外れる事はない。

又、上記構成の塗布棒6及びキャップ嵌合部7は同時成型されるものであるが、キャップ嵌合部7に螺設する雄ネジ9と塗布棒6に螺設する雌ネジ10を同ピッチ、同方向にすることに依つて成形型を増設することなく一体化成型出来るものである。

ある。

以上説明した様に本考案、化粧料容器は容器本体1内に該口部に設けたシゴキ部材を介して挿入する塗布棒を、キャップ嵌合部を一体的に成型すると共に、該塗布棒端部に塗布部材を補助部材を介して螺合した後、カシメ加工、接着加工等を行ひネジ戻りを防止した為、キャップの引き抜き動作に対して塗布部材が簡単に塗布棒から抜け落ちない様に成り、又、該塗布部材が舌状部を有する補助部材を介して塗布棒に固着される為、塗布の際に舌状部が適当に屈曲し、化粧料が塗り易い特徴を有する。

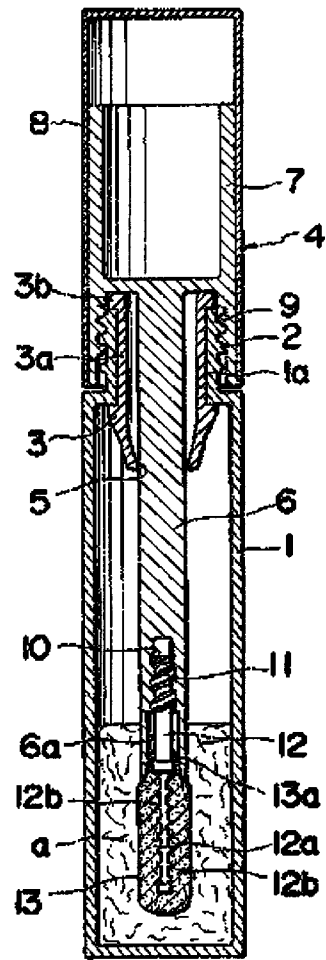
加えて、キャップの螺合ネジと塗布棒の螺合ネジを同ピッチ同方向に構成した為、塗布棒とキャップ嵌合部を一体的に且つ同時成型出来る様に成る等本考案、化粧料容器の実用的効果は極めて大きい。

図面の簡単な説明

図面は本考案、化粧料容器の一実施例を示すもので、第1図は化粧料容器の縦断面図、第2図は同要部分斜視図である。

1～容器本体、2, 11～雄ネジ、3～シゴキ部材、4～キャップ、5～挿入孔、6～塗布棒、7～キャップ嵌合部、8～裝飾キャップ、9, 10～雌ネジ、12～補助部材、12a～舌状部、13～塗布部材、a～化粧料。

第1図



第2図

